第65回 全国人権・同和教育研究大会 徳島県大会で発表

「第65回 全国人権・同和教育研究大会 徳島県大会」が11月23日と24日、徳島県徳島市で開催され、本村から吉田三区の福本るみ子さんが自らの体験と思いを発表しました。その発表の概要を紹介します。

福本るみ子さん（吉田三）

発表の概要

被差別部落に生まれ育つ中での厳しい差別体験により、被差別部落に生まれたことをマイナスに捉えていたが、わが子が「解放子ども学習会」に参加して力をつけていく姿を見て、自分自身も変わらなくてはいけないと考え、解放運動へ関わりを始めた。その後、身の回りに起こった差別事象を挙げ、現在でも差別はあるという現実を訴え、今、この場所からできることを続け、人権の和をさらに広めながら、運動の担い手へバトンタッチしていきたいと報告。

おばちゃんや子どもたちの思いを引き継ぐ、解放運動とは……

私にとって今回の報告は、解放運動の質を問われるものでした。部落差別の厳しい現実を伝えると共に、次世代へ、どのようにつなぐのかをレポートしてみました。

徳島への出発前日、同行するおばちゃんが癌（がん）と聞かされました。体力も相当衰弱していたはずなのに、「今行かんなら、来年はもう行かれん」と、おばちゃんは、強行な日程を頑張られました。

日ごろは部落なんて関係ないと言いながらも、「同和と言うだけで、情けんなか！」とつぶやく胸の内には、計り知れないものがあったと思います。

私は、報告の心配より、おばちゃんのことが気にかかり不安を抱えていました。報告の時には、目の前におばちゃんの顔があり、「何が、ここまでさせるのか……」と考えさせられ、感情的になり泣きながらの報告でした。

会場のあちこちからは、差別の現実や、行政の取り組みへの姿勢など質問をいただきました。

後日、村福祉センターで人権子ども会による第4回解放劇の発表会が行われました。劇の内容は私のレポートを構成したものでしたが、子どもたちの一生懸命な姿に胸が熱くなり、人の心に潜む差別心の愚かさをひしひしと考えさせられました。

おばちゃんや子どもたちの思いを重く受け止め、一人でもいい、部落差別のおかしさに気付いてほしいと願いながら、解放運動に熱と光をもってまた一歩踏み出したいと思います。

最後に、村福祉センター（吉田三区）では、毎週水曜日・午後8時から母親学習会を行っています。誰でも参加できますので、人権について一緒に学びませんか。お待ちしています。

平成25年度熊本県人権フェスティバル参加者募集！

県では、県民の皆さんに人権を身近な問題として考えてもらうため、人権フェスティバルを開催します。

この機会に人権について考えてみませんか。

日時　1月25日（土）　午後1時～4時

場所　熊本テルサ（1階　テルサホール）
熊本市中央区水前寺公園25-51
TEL096（387）7777

内容　人権メッセージ優秀作品表彰式・コッコロコンサート（出演　人権バンドゆう）・講演（講師　立木早絵　演題「さらなる一歩を踏み出そう！」）

申込方法　住所、氏名、電話番号、参加希望人数（1件につき2人まで）、フェスティバルを知ったきっかけを記入のうえ、ハガキかFAX、または、県人権センターのホームページから応募してください。後日参加券が送付されます。電話での応募はできません。

応募先　〒862-8570　熊本県人権同和政策課人権フェスティバル係あて

〈問い合わせ〉　県人権同和政策課　TEL096（333）2299
FAX096（383）1206